

全国統一要求（抜粋）

- 1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
- 2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

第30回定期総会を開催 全国14組織24名参加



組合員の要求にもとづいた経済闘争・組織拡大に取り組もう（1月26日東京都内）



高橋部会長（左）から拡大表彰を受ける群馬ダンプ支部の代表（右）

運動強化

組合員の仕事と生活を守る 単価改善闘争に決起しよう

全国ダンプ

全国ダンプ部会は、1月26日（日）に東京都内で第30回定期総会を開き、全国から14組織24名が参加しました。昨年が続いてオンライン併用での開催となりました。

総会では、単価改善に向けた経済闘争の推進、要求前進の力となる組織拡大の強化を意思統一し

議論等の採択後に「組織拡大表彰」をおこない、健闘賞（5名以上の純増）群馬ダンプ支部が表彰されました。

役員体制の選出では、新部会長に昆茂太郎氏（東北・岩手）、新副部会長に東史郎（北陸）が選出されました。

第30回定期総会は、高橋立顕部会長が主催者あいさつを行い、廣瀬肇事務局長が「経過報告と新年度運動方針案、23年度の会計報告と新年度予算案」等を提案しました。

全体討論では、「昨年の能登半島地震の発生や豪雨災害で被災地はまだ苦しんでいる。一方、復旧・復興工事での就労では常用単価7万円を実現

した」（北陸）、「要求闘争の前進と共に分会会議の開催に力を入れていく。昨年、東北全体で脱退者が多かった。新年度は増勢を勝ち取る意思統一を支部大会で確認した。」（福島）、「沖縄では大型工事が少ない。ダンプ・軽貨物の組織化などの拡大で頑張る」（沖縄）、「リニア工事で一部の元請が合意を拒否している

が概ね各工区での就労を着実に前進させている。一部の工区で単価5万7千円を実現した」（群馬）、「東北ダンプのとりくみとして秋田県内でも使用促進闘争を展開し、元請が地場業者の現場で就労を実現している」（秋田）、「昨年の定期大会で40代の支部委員長を選出するなど世代交代を進めている。単価引き上げの

減に取り組んでいる」（千葉）、「営業ナンバーの名義貸しが横行している。自家用ダンプが普通に就労できるよう運動を広げたい」（広島）、「延べ14名が発言しました。」

その他、燃料・物価高騰の下でダンプの要求闘争と組織拡大の成果に確信を持つことや大臣宛署名・要求アンケートの推進など、運動の強化を進めることを確認しました。

役員体制
部会長 昆茂太郎（東北・岩手）、副部会長 東史郎（北陸）、横坂英治（群馬）、事務局 廣瀬肇（中央）、全国幹事 淵柳勝彦（東北・福島）、高橋智（千葉）、高橋立顕（東海）、前村和弘（関西）、武田喜成（広島）、丸岡昭（四国）、當間鉄平（沖縄）
監査 石井勝己（栃木）、顧問 森谷稔（東北・福島）

各地で仲間を迎えよう
署名・アンケート集約
全国ダンプ部会は、2月3月を「組合員拡大推進ゾーン」と位置づけ、各組織で仲間を増やすことを呼びかけています。2月から「確定申告学習会」を各組織で取り組んでいます。ダンプや建設職人などの参加を呼びかけましょう。また、昨年10月から国土交通大臣宛のダンプ署名に取り組みしています。毎年5月に本省への要請行動を行ない、集めた署名を提出します。

要求アンケートは、ダンプの要求や実態を政府や関係団体に周知させる取り組みです。全組合員の参加が欠かせません。ご協力ください。

復興はこれからが本番 被災者を切り捨てるな

北陸ダンプ 能登半島地震から1年 被災地支援を継続しよう

2024年1月1日に発生した能登半島地震から1年が経ちました。地震の傷も癒えない9月21日には、輪島市で24時間降水量が412.0mmを観測する記録的な豪雨「奥能登豪雨」が発生し、複合災害になりました。「復旧が遅いのではないかな」、「見捨てられた」など能登の復興は、未だ進んでいないのが現状です。増え続ける「災害関連死」が、住宅の倒壊や土砂崩れなどで亡くなった「直接死」を

大きく上回っています。自治体が被災した所有者に代わって撤去を行う「公費解体」を終えたのは、被災者がおこなった「自費解体」を含めて、公費解体申請の約4割程度です。能登半島の地形は急峻で、町や集落は川沿い、海沿いのわずかな低地に集中し、半島の大動脈である、のと里山海道、能越道や国道249号線は各地で盛土崩落など大きな被害を受けました。さらに、金沢市から遠く、珠洲市までは136km、輪島市までは11

0kmと離れており、復旧・復興工事に従事する人たちの宿泊できる場所も限定的です。北陸ダンプ支部は、地震直後から砕石運搬や土砂崩落現場や港の復旧浚渫工事などで地元建設会社や大手ゼネコンでの就労をおこなってきました。

この間、国交省発注工事で当局の指導ミスで白ナンバー排除が発生しました。国土交通省北陸地方整備局及び能登復興事務所、石川県に対して抗議をおこない、法12条団体等の使用促進について職員への再徹底を要請しました。2月から新たな災害復旧工事において就労が始まっています。今後も災害復旧工事だけではなく公共工事全般において就労闘争をおこなっていきます。事務所では、組合員と共に税金学習会も実施しています。

「見やすいチラシを作成力を合わせて組織拡大」
広島ダンプ支部では、2月3月を組織拡大月間と位置づけ、組織拡大に取り組んでいます。これまで組合員からの対象者紹介を中心に宣伝ビラの入ったポケットティッシュやガソリンスタンドや、居酒屋などのお店に置かせてもらう等を行ってきました。最近、HPからの問い合わせなどもあり、資料の送付を依頼される機会も増えてきました。見やすく分かりやすく、宣伝できるようにと新たに広島ダンプ支部パンフレットの作成をしました。

組合員一人ひとりが自覚した活動を積み重ねています (2月2日埼玉県内)



組合員と共に税金学習会にとりくむ様子 (2月2日北陸ダンプ支部事務所内)

ダンプ・大工・電気工・防水工・重機など一人親方の労働組合

建交労 広島ダンプ支部

建交労広島ダンプ支部
〒730-0853
広島県広島市中区堺町一丁目2-9-303
Tel : 082-235-3051 Fax : 082-235-3052
E : ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp

ダンプ・建設労働者の大きな味方。入って安心「建交労」

建交労の歴史
建交労は1999年の結成です。建交労は、それまで長い歴史を持った3つの労働組合が合同して誕生しました。だから歴史がある！

建交労広島ダンプ支部は 要請行動に取り組んでいます！
毎年ダンプキャンペーン(統一行動)を展開し、発注者や業界団体、大手ゼネコンに対して現場労働者の実態を知らせ、ダンプの単価・労働条件改善の要請を行っています。

ダンプの自家用ダンプ排除、背番号による差別は組合に相談
「白ナンバーは違法、マル版は建設現場に入れない」事業者のダンプです。全国で6割以上は自家用ダンプが働いています。しかし、工事現場によっては、「背ナンバー(営業)ダンプ以外は違法」と自家用ダンプを排除することがあります。名義貸し・名義借りといった違法行為にもつながる問題の認識です。
1989年に名古屋高裁のダンプの解雇事件の判決では「ダンプの一人親方はダンプという道具を持った労働者」、「ダンプ持ち労働者は、ダンプを使用している会社の自家用行為であり、貨物運送事業法にはならぬ違法ではない」としています。
また、「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故防止等に関する特別措置法(ダンプ改正法)」が大型ダンプの基本となる法律です。
この法律では、大型ダンプカーに「悪いことをしたダンプを特定」できるように、背番号をつけることが義務付けられています。分かりやすくするために、「主に何を運ぶのか」で区分しているに過ぎないだけです。
マル版が建設現場を運搬してはいけないとはなっていません。砕石も砂も現場で運搬できるということです。

広島ダンプ支部が作成した新拡大用パンフレット (抜粋)

今回は新たに、合材職場の仲間も増えてきていることから、分会を作り呼びかけと使用促進による単価改善の呼びかけを新たに加えています。組合員が紹介できる魅力ある組合づくりも欠かせません。最近特に労災に加入したというところで組合に加入する方が増えてきています。みんなで組合運動も奮闘しながら組合拡大強化を目指して取り組みたいと思います。

支部、地元ダンプ会で内容が被るものがあることから支部議案は地元ダンプ会の運動の内容を無くし、支部と地元ダンプ会のおこなっている運動の違いを参加している仲間に分かりやすくしました。大会は、経過報告・運動方針案・決算報告・予算案は賛成多数で採択され、役員選挙は全員が信任されました。

2月2日(日)に加須市市民プラザかぞにおいて埼玉ダンプ支部第45回定期大会と埼玉地元ダンプ会第25回定期総会を40名出席で開催しました。数年前より支部と地元ダンプ会が統一した日程で開催していますが、混乱もなく進行しました。当日は雪予報の中での開催となりましたが、予定していた仲間は全員が出席をし、経過報告や運動方針案に対して忌憚のない意見を申しました。経過報告、運動方針案共に違う役員から報告提案をしてもらい役員全員が支部・地元ダンプ会の運営を志している意識を持ちながらおこないました。大会議案は、

埼玉北部 支部大会に40名参加 自覚的な活動を推進

支部、地元ダンプ会で内容が被るものがあることから支部議案は地元ダンプ会の運動の内容を無くし、支部と地元ダンプ会のおこなっている運動の違いを参加している仲間に分かりやすくしました。大会は、経過報告・運動方針案・決算報告・予算案は賛成多数で採択され、役員選挙は全員が信任されました。

役員体制

- | | |
|-------|-------|
| 執行委員長 | 野呂 靖夫 |
| 副委員長 | 川村 久志 |
| 書記 | 深谷 秋一 |
| 書記 | 平田 進一 |
| 書記 | 老川 芳雄 |
| 書記 | 山崎 浩孝 |
| 書記 | 黒川 浩孝 |